

「琉球人遺骨返還支えて」 京大訴訟 各地に支部結成



金城美さん(左)による琉球人遺骨返還問題に関する講演を聞く
参加者＝4月30日、宜野湾市内

【宜野湾】戦前、旧京都帝国大学の人類学者が今帰仁村の百按司墓から26体の遺骨を持ち去ったとして、第一尚氏の子孫ら5人が京大に遺骨返還と慰謝料を求めている琉球人遺骨返還訴訟を支える会の結成報告集会が4月30日、宜野湾市内であった。市民ら35人が集まった。

根保清次共同代表は「訴訟の相手は京都大学だが、背後には日本政府がいる。訴訟を通じ、いまだに日本政府が沖縄を植民地扱っている状況を国際世論に訴

えよう」とあいさつ。

3月にあった第1回口頭弁論で意見陳述した亀谷正子さん(74)は「琉球民族の先人たちの遺骨が物として扱われ、尊厳を踏みにじられている。怒りを感じる賛同者が増え、子や孫の未来のために尊厳の回復を目指す訴訟を支えてほしい」と呼び掛けた。原告で彫刻家の金城美さんは同問題の歴史的背景などについて講演。支える会は大阪や滋賀、奈良、関東支部が設立されている。原告らは昨年12月に京都地裁へ提訴した。